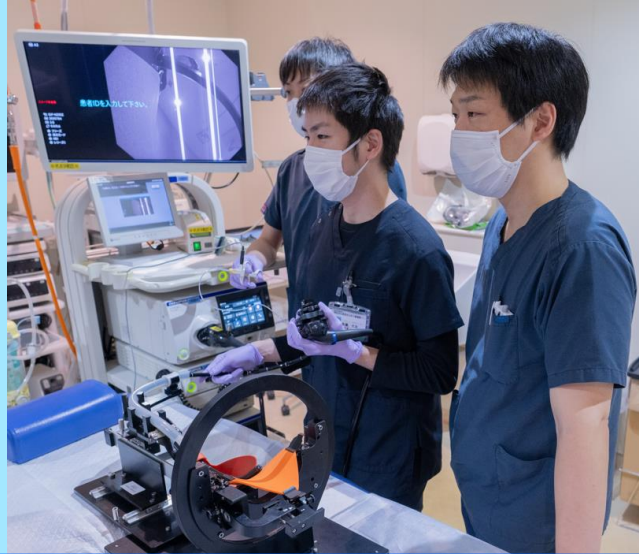




医療機器開発センター

寄付報告書 2023年度

ご寄付いただきありがとうございました。
2023年度NEXT寄付収支をご報告いたします。



NEXT 1年間の活動成果と今後

臨床現場観察プログラム

NEXT医療機器センターのミッションの1つである人材育成のために、企業や大学から臨床現場の見学を受け入れています。新しい医療機器開発のための医療ニーズを拾い上げたり、医療現場の環境を勉強してもらうことが目的です。2023年度は、企業、大学などから322の方が当院で見学を実施しました。



起業を目指す人材育成プログラム

医療に変革をもたらすような新規の医療機器の多くはベンチャー企業により開発されるのが世界的にも一般的となっています。世界を変える医療機器の開発を目指すNEXT医療機器開発センターは、起業マインドを持つ医師、エンジニア、ビジネスパーソンに医療機器開発のための起業に対する解像度上げるための人材育成プログラムを運営しています。2021年度から3年間で延べ113名の方にご参加いただきました。

1年間の活動成果と今後

NEXT医療機器開発センターは、2017年の開設以降最先端の医療技術の提供、次世代医療機器や技術の開発、がん医療におけるリーダーの育成等に取り組んで参りました。2023年度は国立がん研究センター認定ベンチャーである朝日サージカルロボティクス株式会社、株式会社Jmeesが開発した複数の製品が臨床応用に至りました。NEXT医療機器開発センターの大きな成果として、皆様からご寄付を頂きましたお気持ちに応えられたのではないかと深く感謝しております。引き続き、ご寄付を有効に活用させていただき、NEXT医療機器開発センターの使命を果たすべく精進してまいります。

寄付収支報告

収入		(円)
入金年度	入金額	
前年度繰越	80,542,994	
2023年度	6,537,000	
合計		
次年度繰越	63,094,013	



支出		(円)
用途	費目	支出額
1.最先端の医療技術を提供	データ通信料	154,440
		154,440
2.医療機器や技術の開発	データ通信料	170,118
	その他委託費	11,379,278
	雑費	628,215
	医療消耗器具備品費	403,579
		12,581,190
3.新医療を臨床現場に		0
		0
4.医療者の育成	医療消耗器具備品費	8,555,474
	消耗器具備品費、消耗品費	924,917
	雑費	268,860
	その他器械賃借料	881,100
		10,630,351
その他	負債振替	620,000
		620,000
2023年度支出合計		23,985,981

1.最先端の医療技術を提供

新コンセプトの手術支援ロボットが医療現場に

大腸外科 伊藤 雅昭

当院と朝日サージカルロボティクス株式会社（旧株式会社A-Traction）が共同で開発した腹腔鏡手術支援ロボットが、2023年2月1日に日本で医療機器として承認されました。通常2人の外科医が担う助手とスコピストの作業を、1台のロボットが担うことで合理的な手術環境が整備され、より効率的で、より患者さんの体への負担が少ない手術の提供が期待されます。2023年11月29日に大腸がんに対する第1例目の手術を実施し、2024年5月31日時点で計19例の患者さんで手術を実施し、安全な手術が提供されています。



2.医療機器や技術の開発

内視鏡検査を楽に受けていただくために

消化管内視鏡科 中條 恵一郎

胃内視鏡や大腸内視鏡検査は、不安や苦痛を伴う検査です。患者様により快適に検査を受けていただくために、鎮痛薬や鎮静薬が用いられますが、お薬には合併症などの問題が伴います。近年、バーチャル・リアリティ（VR）によって不安や痛みを軽減する技術が注目されています。VRゴーグルを装着して映像を視聴しながら検査を受けていただくことで、苦痛を軽減することを目指したシステムを開発するため、寄付金を活用させていただいております。



VRシステム



映像コンテンツ例

3.新医療を臨床現場に

スマホアプリで大腸内視鏡検査をより快適に

消化管内視鏡科 新村 健介

当院と株式会社Jmeesは、大腸内視鏡検査前処置時の排便性状をAIにより判定するアプリ「ナースコープ」を開発しました。検査前には下剤服用中の排便を患者さん自身や看護師が確認・判定する必要がありました。ナースコープを使用することで、患者さんは検査前に排便性状の判定をするという負担や看護師に便を見られるという抵抗感から解放されます。検査前の負担を軽減することで大腸内視鏡検査を快適に受けていただくことが期待されます。



4.医療者の育成

顕微鏡下血管吻合トレーニング

形成外科 日高 剛朗

がんの手術で失われた人体の一部を体の他の部分から組織を移植して作る再建外科において、組織を生きのまま移植するために細い血管を繋ぐ必要があります。直径1mm程の血管吻合は顕微鏡下の微細な操作を要し、技術の習得にトレーニングが必要です。顕微鏡下手術には非常に細い針糸やそれを操作する器具など特殊な道具が必要なので、その購入に寄付金を使用させていただき、若手のトレーニングに活用させていただいております。

